

8. 余命の迫ったがん患者の希望を支えるケア ～娘の結婚式に焦点を当てた援助～

武田 智子 (桐生厚生総合病院)

高橋 佳子 (伊勢崎市民病院)

【目的・方法】 がん患者は様々な苦痛の中で、悩み、不安を抱いている。村田理論により、時間存在、関係存在、自律存在が揺らいでいる余命の短いがん患者と関わり、自己効力感を強め希望を支える援助ができたので報告する。【事例】 50歳代女性、結腸がん、職業会計士。実母健在、2カ月後に挙式予定の娘がいる。【倫理的配慮】 個人が特定されないよう配慮。【結果・考察】 結婚式に間に合うかどうかという時間存在のゆらぎ、「自分は子どもを送り出すことも、親を看取することもできない」という関係存在のゆらぎ、仕事復帰や結婚式への出席が危ういという自律存在のゆらぎがあった。他職種のアプローチにより、癌性疼痛・嘔吐などの調整がついたことで、症状から希望に意識がむいた。仕事の調整や体調管理をすることは、彼女の自己効力感を高め、自律性を回復する援助になった。

ライフレビューにより、自己存在と生きる希望を整理でき、関係存在が回復し、結婚式への希望を持って、同時に、結婚式という未来への希望で時間存在を補うことができたと考える。「娘の門出を祝いたい」という希望を全うされ永眠された。【結論】 村田理論を用いることで患者のスピリチュアルな側面が明らかにされた。患者の想いや希望を受け止め、患者の力を信じて可能な限り配慮することで残された時間を有効に過ごすことができた。

《ポスターセッション》

がん患者が抱える苦痛へのサポート

1. 根治手術不能子宮がん患者の病状受容における看護介入の検討 —アギュレラの危機問題解決モデルを用いて—

市川 加代, 瀬山 留加, 神田 清子

二渡 玉江 (群馬大医・保・看護学)

上田 礼子, 鈴木 伸代

(群馬大医・附属病院)

【はじめに】 事例紹介: A氏 40歳代 女性 術後診断にて子宮体がんの卵巣転移(ステージIV)。未婚で両親は他界し独居。術前より手術に伴う身体的影響や独りでがんと共存し生きることへの不安を抱いていたA氏に対し、根治手術が行えなかった現状や今後の治療を受容できずに危機に陥る可能性が予測された。そこでアギュ

レラの危機問題解決モデルを使用し看護介入を検討し、病状を容し危機が回避されたため、その結果を報告する。【方法】 アギュレラの危機問題解決モデルを用いた看護介入の検討。【結果】 危機を促進するA氏の欠如したバランス保持要因として1. 性の喪失に関する発言や受診が遅れたことへの後悔などの認知, 2. 社会的サポートの希薄な状況, 3. 夜間眠れずに病気について考えるという対処が考えられた。充足するための看護介入として、退院後の社会的サポート獲得のための方略の検討と情報提供、抱える不安や後悔などA氏の苦しみに対する傾聴を重点的に行った。介入後、「もっと周囲の人に頼ってもいいんですね。これからの治療も頑張りたい。」という退院後のサポート資源を獲得し現在の病状や今後の治療を前向きに捉えた発言から、A氏の危機的状況が回避されたと考えた。【考察】 今回、A氏にアギュレラの危機問題解決モデルを活用したことにより、危機的状況を促進する要因を明らかにし、重点的に看護介入をしたことで、A氏の危機的状況の回避につながった。

2. 尿管皮膚瘻造設後受容困難であった患者への看護支援 —アギュレラの危機理論を用いて—

飯野 君江, 瀬山 留加, 神田 清子

二渡 玉江 (群馬大医・保・看護学)

林 幸恵, 鈴木 伸代

(群馬大医・附属病院)

【事例紹介】 A氏 70代男性。右尿管腫瘍浸潤性膀胱がん。右腎尿管全摘、膀胱全摘、尿管皮膚瘻造設施行。術前は前向きであったが、尿管皮膚瘻の管理は他人任せで、術前の認識との違いを実感し、手遅れだったと誤解していた。妻に頼る半面、子へ気兼ねし、支援を躊躇していた。A氏が尿路変更を受容できず危機的状況に陥らないようアギュレラの問題解決モデルを用いて介入し受容を促し、尿管皮膚瘻のセルフケアの意欲を高めることができたのでここに報告する。【方法】 アギュレラの問題解決モデルを用いた介入事例検討。【結果】 問題解決を決定づけるバランス保持要因を強化するための介入を行った。「出来事の知覚」に対し傾聴し、疑問に対し知識の提供を行った。「社会的支持」に対し家族の可能な援助を確認し、支援体制を明確にした。「対処規制」は、A氏は元々問題解決型コーピングをとっており、問題を明確化し医師と皮膚排泄ケア認定看護師に質問を促し解消した。パウチ交換時にできたことを評価し成功体験を重ね自己効力感を高めていった。A氏は次のパウチ交換のときには自ら実施する姿勢が見られた。【考察】 A氏はバランス保持要因を欠いており、危機的状況に陥る可能性があった。正確な知識を得て有効なサポートを認識